

13:1 また私は、海から一頭の獣が上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。その角には十の王冠があり、その頭には神を冒瀆する様々な名があった。

13:2 私が見たその獣は豹に似ていて、足は熊の足のよう、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。

13:3 その頭のうちの一つは打たれて死んだと思われたが、その致命的な傷は治った。全地は驚いてその獣に従い、

13:4 竜を拝んだ。竜が獣に権威を与えたからである。また人々は獣も拝んで言った。「だれがこの獣に比べられるだろうか。だれがこれと戦うことができるだろうか。」

13:5 この獣には、大言壮語して冒すの言葉を語る口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。

13:6 獣は神を冒瀆するために口を開いて、神の御名と神の幕屋、また天に住む者たちを冒した。

13:7 獣は、聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つことが許された。また、あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威が与えられた。

13:8 地に住む者たちで、世界の基が据えられたときから、屠られた子羊のいのちの書にその名が書き記されていない者はみな、この獣を拝むようになる。

13:9 耳のある者は聞きなさい。

13:10 捕らわれの身になるべき者は捕らわれ、剣で殺されるべき者は剣で殺される。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰が必要である。

にせキリストとも言えるようなものが終りの日には勢力を増して、人々を惑わすようです。これはひょう、熊、ししのような力が備わっているようですから、多くの人々がこれに惑わされます。それでこの獣に権威を与えて竜を人々は拝むのですが、この竜はサタンであり、当然神に敵対するようになってしまうということです。

クリスチャンすなわち「聖徒たち」も、この獣には勝つことができないのですから、相当な苦しみとなることでしょう。また「とりこになる」者もなりますし、「剣で殺されるべき者は、剣で殺される」とありますから、怒りや復讐などによる戦いは無力であることが分かります。ここに「忍耐」があるのですが、私たちは最後は神様が勝利をとってくださると信じていますから、主にゆだねるのが最善なのです。この世にあって、今からそのような歩みをして、本当の勇気を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

